道徳・特活だより

あ　し　あ　と

～生徒の夢を現実にする学校をめざして～

Ｖｏｌ．２２
令和２年９月２９日
上島町立弓削中学校

新人大会近づく　～最後まであきらめず、力を出し切ろう～

来週から今治・越智新人体育大会が始まります。夏の総体や親善大会などが軒並み中止になったため、今回初めて大きな大会に出場する人もいると思います。「よし、やるぞ」という闘志が高まるとともに、緊張感や不安感も感じていることでしょう。

最後まで 希望を捨てちゃいかん。 あきらめたら そこで試合終了だよ。

井上雄彦さんの、バスケットボールを題材とした大ヒット漫画『ＳＬＡＭ　ＤＵＮＫ』の中でのセリフです。２学期の始業式では、式辞として校長先生が平成 30 年８月に行われた第 100 回全国高校野球選手権大会２回戦での愛媛代表、済美高校と、石川代表、星陵高校の、逆転に次ぐ逆転の熱戦のようすをお話しされました。覚えていますか？

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
星陵	5	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	11
済美	0	0	1	0	0	0	0	8	0	0	0	0	4×	13

高校野球の試合は９回までです。ふつう８回で６点差があると、勝負あったと感じる人が多いと思います。ところが済美高校は、そこから大逆転し２点リードで最終回を迎えました。すると今度は星陵高校が土壇場の９回に２点取って追いつき、延長戦に入りました。延長戦になると、回が終わった段階でリードしている方の勝ちです。済美、星陵どちらも 10～12 回を抑えきり、特別ルールが適用される 13 回でようやく決着が着いたのです。互いの粘り強さ、リードされてもあきらめない姿勢が 100 回を越える夏の甲子園大会の歴史に残る試合として、高校野球ファンの記憶に焼き付いています。

中学生の試合でも、終盤に大逆転が起きることはよくあります。

総体では平成 17 年の市町村合併前は、越智郡からは１校しか県大会へ出場することができませんでした。その頃私が顧問を務めていた卓球部は、部員数がぎりぎり団体戦に出場できる６名。弓削中学校より小規模な学校だったので、この６名が学校の全女子生徒です。しかも３名は入学して数か月の１年生です。試合は１、２回戦とも３対２で勝ち、決勝戦を迎えました。３年生２人が勝って２対２でラストの２年生に回ってきました。相手のキャプテンの選手に押され気味で試合が進み、２ゲームを先に取られ、３ゲーム目も６対８とリードされて終盤を迎えました。相手はこのゲームであと３点取れば優勝です。勝てると安心したのでしょうか、ここから流れが変わりました。得意なコースにラリーを導き、そのゲームを何とかジュースで取り、４ゲーム目。変わった流れを奪い返されることなく、続く５ゲーム目も取って逆転勝利を収め、チームを優勝に導いたのです。

中学生のスポーツでは気持ちの持ち方が結果に大きく影響するものです。「これで勝てそうだな」と思った瞬間からプレーが変わり逆転されることは多々あります。逆にリードを許していても「まだまだやれる」という気持ちをもち続ける限り、逆転の可能性はあるのです。ゲーム終了まで「あきらめない」姿勢は、結果を左右するだけでなく、次につながる経験になるはずです。